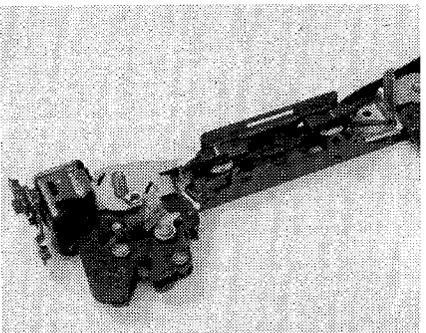


インドネシアトヨタ

千代田工



駐在員2人を派遣し、工場の立ち上げ準備を進めている。

鋼鉄製部品の周囲に樹脂を成形して静音性を高めたい部品。現在は日本で生産して現地取引先のシート工場に送っているが、現地生産に切り替える。取引先にとっては現地調達率の向上とコスト削減につながる。

また日本の接やカシメ工程で自動化

トヨタから表面処理受託

オリエンタルエンヂアルミ金型向け

オリエンタルエンヂニアルング(東京都荒川区、河田一喜社長、03・3802・4311)は、トヨタ自動車から量産用のアルミダイカスト金型などの表面処理加工を受託した。耐久性が高く、低コストで処理できることが評価された。トヨタの衣浦工場(愛知県碧南市)、上郷工場(同豊田市)へ納入を始めた。

溶融したアルミをすくうラトル、アルミを金型に注入するスリーブなどの処理を受託した。溶損などへの耐久性が従来処理比3〜10倍になる一方、コストはコーテ

ィングに比べて約3分の1に抑えられる。窒化処理などをきめ細かくコントロールできるほか、金

型補修時に溶接しやすいためメンテナンスが容易になる。素材材センターの「第29回素形材産業技術賞」の奨励賞を受賞した実績がある。

オリエンタルエンヂニアルングはアルミダイカストをはじめ、重力铸造型、機械部品などに適した表面処理技術として提案し受託加工を伸ばす。

産ロボ子会社を統合

デンソー、製販一体化

【名古屋】デンソーは4日、産業用ロボットなどの開発販売を手がける子会社のデンソーウェーブ(愛知県阿久比町)と、生産を手がける子会社デンソーエレクトクス(同)を2015年1月に経営統合すると発表し

た。製販一体の経営により競争力を高める。統合後はデンソーウェーブを存続会社とする。エレクトクスの社員268人は新会社に移籍する。資本構成や合併方式などは今後詰める。デンソーはウェーブに75%、エレ

ックスに100%出資、ウェーブには豊田通商とトッパンTDKレーベルの製造部門だった。

(東京都台東区)も出資している。エレクトクスは産業用ロボットと自動認識装置の製造を担当。製品はすべてウェーブに出荷しており、実質的にはウェーブの製造部門だった。

米調査会社オートデータがまとめた11月の米国新車販売台数は、前年同月を上回るのは2

11月米新車販売台数	
社名	販売台数
G	212,060(13.7)
M	180,705(7.1)

日本とインドネシア工場の比較から

日系工業団地の一角にダイハツの新工場は立地する。工場のコンセプトは「ジャスト・フィット・フォー・インドネシア(インドネシアに最適化)」。非常にシンプルだが、この工場の取り組みを一言で表現するには最もふさわしい。

静かなプレス

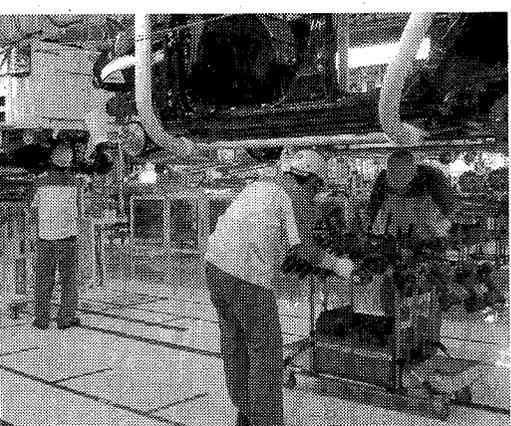
象的だ。最新のサーボプレスは1分16回のシヨットスピードでトヨタゲループでも最速という。しかし、導入した設備が新

しく他工場高いのは当然の本質は別

ダイハツ工業がインドネシアに作った最新鋭の車両工場で、現地のエコカー政策に対応した低価格小型車の本格生産が始まった。このアストラ・ダイハツ・モーター(A・DM)カラワン工場は、2007年末のダイハツ九州(DKC)大分第2工場(大分県中津市)以来となる新車両工場。九州で確立した「シンプル・スリム・コンパクト(SSC)」の工場づくりをベースに、現地最適化を徹底的に進めた。大分第2と新工場の比較を通して、ダイハツが挑

ダイハツ 挑戦するモノづくり

「プレス工場はDKCの生産能力を15%上回っている」と伊藤聡工場長は案内する。プレス工場



工場づくりの良し(インドネシア)の通し(インドネシア)の見込み(インドネシア)の明るく(インドネシア)の新工場

大分第2工場もコンパクト化も心がける必要させる必要気候に配天井は高いべての工程が一望できる化」も図三井正則